

緑の風

JRW JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年5月1日 No.95

5月1日は「メーデー」 8時間労働の歴史を考えよう!

◆メーデーとは？

12～14時間の長時間労働が当たり前だった1886年のアメリカにおいて「8時間は労働に、8時間は休息に、そしてあとの8時間は自分の自由な時間のために」を求めて5月1日に労働者が立ち上がったことを起源に、世界的に労働条件改善を求めるようになったのが「メーデー」です。



第95回メーデー中央大会(4月27日)

激しいたたかいの末、現在の「8時間労働」が確立されたのです。



◆あなたの職場の過半数代表は「見て見ぬふり」していませんか？

組織再編や「融合と連携」で業務量が増えたり、要員不足で休日出勤が多く、心も身体も限界だとの声が寄せられています。特に、Joi-Tab等の導入によって持ち帰りでの作業ができるようになり、サービス超勤の温床となりがねないなど、労働時間管理が大きな課題となっています。

一方で「36協定」の締結権者が労働組合ではなく過半数代表となった職場が増えていますが、社員の健康を守るため、総労働時間短縮について使用者側と議論することも過半数代表者の重要な役割です。

皆さんが一票を投じて選んだ過半数代表者は、社員の健康を守る役割を果たしていますか？慢性的な長時間労働や休日出勤、サービス超勤が黙認されているとの声も寄せられており、一人ひとりが「経営のチェック機能」を果たし、声を上げることが大切です。

「諦め」「黙認」では現状は何も変わりません！

JR東労組に結集し、健康に働ける職場を創り上げよう！